

電 気 通 信 大 学  
外部評価（研究活動）報告書

平成27年3月

# 目次

外部評価委員会構成.....	1
<b>I. 外部評価委員会報告（評価・提言）</b>	
1. 評価指標について.....	3
2. 国際活動について.....	4
3. 若手研究者支援について.....	4
4. 学生の研究活動への参画について.....	4
5. 社会人教育の充実について.....	5
<b>II. 外部評価委員会実施概要</b>	
1. 外部評価のスケジュール.....	7
2. 外部評価の手法・観点.....	7
3. 外部評価委員会の日程.....	8
4. 配付資料一覧.....	8
5. 外部評価委員会 大学側出席者名簿.....	10
6. 平成 26 年度評価室メンバー.....	11

## 外部評価委員会構成

委員長	坂内 正夫	独立行政法人 情報通信研究機構理事長
委員	喜連川 優	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構国立情報学研究所長 東京大学生産技術研究所教授
委員	白井 俊明	横河電機株式会社 フェロー（技術戦略・事業戦略企画担当）
委員	武田 晴夫	株式会社日立製作所 理事／研究開発グループ技師長
委員	野間口 有	三菱電機株式会社相談役 独立行政法人産業技術総合研究所最高顧問
委員	村瀬 淳	N T T 先端技術総合研究所長

（委員長以外は五十音順）

# I . 外部評価委員会報告

## 外部評価委員会報告（評価・提言）

電気通信大学の研究活動は、全体的に高く評価できる。電気通信大学は、研究分野が絞られていることが特徴であり、強みでもある。今後ともこのことを生かして、標準化の動向等を踏まえた上での研究や社会人教育、また、産学官を挙げた新しい取り組みなど、より新しいことにチャレンジすることを期待している。加えて、学長によるトップガバナンスを効かせて、戦略的な投資を行ってほしい。

ただし、情報系の分野では今、大きなパラダイムシフトが起きている。かつては、コンピュータシステムや通信システムなどを作ることで情報分野の産業が成り立っていたが、近年では、例えば農業や交通、エネルギーといった他の分野との分野融合・産業融合へと変化しており、新しい価値を他の分野と協同で作っていかねばならない時代となってきている。そのため、今後は情報のスキルだけでなく、他分野の見識も持ち合わせるようなスキルが必要となってくるだろう。

外部評価委員会としては、このような時代の変化の中で電気通信大学の更なる発展に向けて以下を提言する。

### 1. 研究活動の評価について

電気通信大学は、自己点検・評価において非常に丁寧な数値的評価を行っている。しかし、研究活動を評価するにあたっては、そのための指標を下記のような観点からよく工夫する必要がある。

- (1) 今回の自己点検・評価では、トムソン・ロイターによる論文数と被引用数の分析が用いられているが、電気通信大学にとってメインとなる情報系の分野では、これは必ずしも適した指標とはならない。情報系のための独自の指標を作ることが望ましい。
- (2) 情報システム学研究科は、自己点検・評価報告書で挙げられている研究業績の判断区分（SS・S）に該当する研究の件数や外部資金受入状況・研究成果の公表実績の件数等が、情報理工学研究科と比較して少ない。情報システム学研究科を評価するための指標が不足しているのではないかと考えられる。情報システム学研究科は、他機関との連携についてより踏み込んだ取組をしており、これは他大学と比べても独自の特徴となっている。このような点について、よりアピールした方がよい。
- (3) 中期目標・中期計画で総合コミュニケーション科学というものを掲げているが、これをもっと具体化し、総合コミュニケーション科学を牽引してほしい。電気通信大学の強みを総合コミュニケーション科学における独自の指標として定義し、その分野でトップであるということを主張してほしい。

- (4) 国内の大学だけではなく、海外の大学にも比較対象を設定して、グローバルな視点で行ってほしい。そうすることで、電気通信大学の特徴が分かり、また場合によっては、アピールする点も出てくることが期待される。
- (5) 科学研究費補助金の件数が多く、これは電気通信大学がアベレージとしてのポテンシャルが高いことを示しており評価することができる。しかし、それだけではなく、電気通信大学における先端的な研究を見える化し、より目立たせるようにしてほしい。
- (6) 研究センターについて、まずビジョンを明確に打ち出し、ビジョンに対する成果を測る指標として論文数だけでなく、マスコミへの露出度など様々な見方を取り入れていくとよい。

## 2. 国際活動について

大学の研究活動、特に情報系の分野においては、国際活動は重要な位置を占める。電気通信大学は、国際化について評価できるが、下記のような取り組みを行い、より高みを目指してもらいたい。

- (1) 国際的なアクティビティについては、理工系の大学において、論文の国際共著率が非常に高く大いに評価できる。
- (2) 先端ワイヤレスコミュニケーション研究センターは様々な企業と連携しており、産業界として、異分野の業界と連携できるプラットフォームとなることを期待している。そのためには、分野の幅を少し広げることも意識してもらいたい。国際標準化動向やマーケット動向を意識した研究の方向性は有していると考えられる。大学全体としても、そのようなプランを持つことが望ましい。
- (3) 電気通信大学には、他の研究機関と共に、世界と戦うためのオープンイノベーションの拠点となっていくことを期待している。
- (4) 教員は研究者として、国際会議におけるチェアマンのようなリーダーシップをとれるようになっていただきたい。そのためには、大学側でもそれを評価するような指標を設定して国際化に向けて努力してもらいたい。

## 3. 若手研究者支援について

若手研究者の支援については、既に予算をあてて支援策を実施しているが、より時間的、経費的、環境的にも踏み込んだ施策を実施していただきたい。また、優秀な若手研究者に対してもピンポイントな支援を行うなど、若手のモチベーションを上げるような仕組みを考え、国際的に活躍できる人材を育成していただきたい。

## 4. 学生の研究活動への参画について

大学では学生も研究活動に関わっているという観点において、電気通信大学の情報処理学会における学生会員数が2位であることは、近年、学生に学会を経験させることが

少なくなる傾向のなか、高く評価できる。

また、日本の学生や研究者の国際的な討論の場での発信に弱いところがあるので、電気通信大学としても留学生が多く在籍していることを生かし、国際的な場でのディベートやディスカッションの場を増やしていただきたい。

## 5. 社会人教育の充実について

社会人教育については、電気通信大学の都心に近いというロケーションや大学院課程の昼夜開講といったポテンシャルを生かして、さらに伸ばしてもらいたい。ドクターコースの教育課程についてフレキシビリティを持たせ、また産業界とタイアップして社会人の再教育を行うなど、更に充実させてほしい。

平成27年 3月23日

国立大学法人電気通信大学長

福 田 喬 殿

外部評価委員会委員長 坂 内 正 夫

## Ⅱ. 外部評価委員会実施概要

## 1. 外部評価のスケジュール

○平成27年1月6日（火）、14日（水）、15日（木）、19日（月）に、外部評価委員に対して事前説明

### 【事前配付資料】

#### （1）自己点検・評価報告書等

- ①自己点検・評価報告書（研究活動）（平成22～24年度）
- ②研究成果の分析調査（2014年1月）

#### （2）大学資料

- ①研究大学強化促進事業紹介パンフレット
- ②研究大学強化促進事業プレゼン資料
- ③研究力強化実現構想
- ④科学研究費の細目別採択件数上位10機関に記載された細目数
- ⑤サイエンスマップ2010&2012（抜粋）
- ⑥研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011（抜粋）
- ⑦電気通信大学研究ステーション一覧
- ⑧外部資金受入状況（平成18～25年度）
- ⑨科研費種目別・年度別採択件数及び金額一覧（平成21～25年度）
- ⑩UECビジョン2018
- ⑪電気通信大学概要（2014－2015）

#### （3）参考資料

- ①今後の国立大学の機能強化に向けての考え方（平成25年6月20日）
- ②大学改革実行プラン（平成24年6月）
- ③国立大学改革プラン（平成25年11月）
- ④電気通信大学のミッションの再定義（平成25年12月18日公表）

○平成27年1月22日（木）に外部評価委員会を開催

## 2. 外部評価の手法・観点

- （1）今後の国立大学の機能強化に向けての考え方や大学改革実行プランなどの観点を踏まえ、UECビジョン2018の実現に向けて研究活動が推進されているかなどについて検証を行い、意見を取りまとめる。
- （2）外部評価報告書として意見をホームページ等を通じて学内外に公表する。

### 3. 外部評価委員会の日程

- (1) 日 時 平成27年1月22日(木) 10時
- (2) 場 所 本部棟4階 特別会議室
- (3) 日 程 10:00 ～ 12:00 委員会(大学側による説明及び質疑応答)
- 12:00 ～ 13:00 昼食
- 13:00 ～ 14:30 実地調査(学内見学)
- ・先端ワイヤレスコミュニケーション研究センター
- ・レーザー新世代研究センター
- 14:30 ～ 15:00 委員会(質疑応答)
- 15:00 ～ 16:00 委員会(外部評価委員による協議及び講評)

### 4. 配付資料一覧

#### 【事前配付資料】

(1) 自己点検・評価報告書等

- ①自己点検・評価報告書(研究活動)(平成22～24年度)
- ②研究成果の分析調査(2014年1月)

(2) 大学資料

- ①研究大学強化促進事業紹介パンフレット
- ②研究大学強化促進事業プレゼン資料
- ③研究力強化実現構想
- ④科学研究費の細目別採択件数上位10機関に記載された細目数
- ⑤サイエンスマップ2010&2012(抜粋)
- ⑥研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011(抜粋)
- ⑦電気通信大学研究ステーション一覧
- ⑧外部資金受入状況(平成18～25年度)
- ⑨科研費種目別・年度別採択件数及び金額一覧(平成21～25年度)
- ⑩UECビジョン2018
- ⑪電気通信大学概要(2014-2015)

(3) 参考資料

- ①今後の国立大学の機能強化に向けての考え方(平成25年6月20日)
- ②大学改革実行プラン(平成24年6月)
- ③国立大学改革プラン(平成25年11月)
- ④電気通信大学のミッションの再定義(平成25年12月18日公表)

【当日配付資料】

- ・平成26年度外部評価委員名簿
- ・平成26年度外部評価委員会大学側出席者名簿
- ・電気通信大学外部評価委員会（研究活動）
- ・研究業績の判断基準
- ・情報理工学研究科オープンキャンパス開催にあたって「大学院で学ぶこと、拓かれる未来」
- ・大学院情報システム学研究科
- ・第2回電気通信大学主催シンポジウム抄録（読売新聞）

5. 外部評価委員会 大学側出席者名簿

職 名	氏 名
電気通信大学長	福 田 喬
理事（研究戦略担当）	三 橋 渉
理事・副学長（教育戦略担当）	中 野 和 司
理事（経営戦略担当）	木 野 茂 徳
理事（総務担当）	児 玉 孝
副学長（研究担当）	由 良 憲 二
大学院情報理工学研究科長	本 城 和 彦
大学院情報システム学研究科長	本 多 弘 樹

6. 平成 26 年度評価室メンバー

区 分	氏 名	備 考
室 長	中 野 和 司	理事・副学長(教育戦略担当)
副室長	三 橋 涉	理事(研究戦略担当)
室 員	本 城 和 彦	情報理工学研究科長
	本 多 弘 樹	情報システム学研究科長
	内 海 彰	情報理工学研究科 総合情報学専攻教授
	阪 口 豊	情報システム学研究科 情報メディアシステム学専攻教授
	岩 崎 豊 久	副理事